



組合員活動のコーナー

なんで核兵器を使うんやろう?

8月5日～7日・5名参加

パルコープでは、被ばく体験を風化させず次世代へ伝えるために毎年「ピースツアー」を行なっています。原爆が投下されたのは世界でも広島と長崎の2都市だけです。親子や友人でその地を訪ね、見て、聴いて、知る「ピースツアー」。今回はヒロシマツアーの報告です。



原爆ドームの前で、ヒロシマ平和の語り部の方と(左端)

大人4名と小学生1名で66年前に原爆が落とされたヒロシマを訪れました。ホロコースト記念館(ナチスによる大虐殺の歴史を学ぶ資料館)、広島平和記念式典、原爆資料館、軍需工場のあった長門川「虹の広場」、晩はとうとう流しにも参加しました。原爆投下前や直後の写真を見ながら記念公園や広島島の街を見学もして、平和の尊さをしっかり感じる事ができました。

なんで核兵器使うんやろう?何で戦争するんやろう?仲良くなったら戦争なんか無くなるのね。

(初めて参加した大島宏介くん・10歳の3日目の感想より)



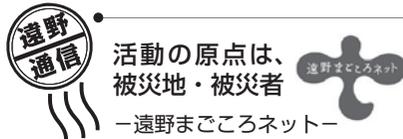
日生協主催の「虹の広場」にパルコープからも展示(日帰り参加の組合員さんも一緒に)。後列左は、「INORI」の作曲者で歌手の佐々木祐滋さん

組合員活動は「食」「平和」「環境」「くらし」の4つの柱にそって各地域で多彩なとりくみが行われています。その様子を紹介していきます。

～ 岩手 被災地ボランティア 活動 ～

〔第12陣〕8月6日～12日 支所・店舗職員など13名 (内ならコープの方2名)

開沼さん(つるみ店の水産担当)、大森さん(都島支所で旭区・城東区の配送担当)、青山さん(南稜屋川支所で門真市の配送担当)、菅生さん(理事会室)、安原さん(ならコープ)、田中さん(ならコープ)、袋井さん、岩元さん、小川さん、下浦さん、松本さん、團さん、千々岩さん



活動の原点は、被災地・被災者

～遠野まごころネット～

震災からまもなく半年。被災者の多くの方は、住まいを仮設住宅に移されました。しかし、仮設住宅へ移れば「災害救助法」の適用が除外扱いとなり、食料や物資の支援が打ち切られるため、一部の方は、移りたくても移ることのできない方もおられます。また、仮設住宅では引きこもってしまう場合もあり、支援が必要な人が見えにくくなるという問題が出ています。

その中で、まごころネットでは、生活困窮者など弱者の方々に「物資お届け」や「心と体のケア」を中・長期的に続けていこうとしています。

パルコープ職員ボランティアは、第1期12陣の後、第2期も同様に8月20日から遠野を拠点に活動を続けています。(まごころネットに常駐する事務局の林さんより)



諸福の配送担当 小川さん



支所で営業担当 岩元さん

大槌町・江岸寺墓地の瓦礫かたづけで、多くのお墓は掘り出されて分けられていました。ブロック塀の囲いで内側に大量の泥がたまっていて、まず手で掘って大まかに瓦や壁材、トタン材、衣類、日用品などの目につくものを外に出しました。深さ50～70cmほどの泥を半分ほど取り除き、花立てや線香立てもキレイに戻せました。(大東支所で大東市



だ、とうれしくなりました。(CS) 出向・袋井さん

金石市箱崎の被災者で69歳の方から遠野まごころネットにお礼状がとどき見せていただきました。自分ではできないことをやっていた、だき、おかげで家の跡地で初盆をむかえることができた、という内容でした。この地域は最初、ボランティアとの関係がうまくいってなかったと聞いていたのですが、地道な活動が評価されたの

被災地の幼児・小学生などの遊び道具の配達があれば...野球のグローブ、サッカーの球、女子用の用具が流されていってあまり遊んでいる所を見かけないし、声をかけたら子どももが寄ってきます。子どもの遊び道具なども届けられたいと感じます。(鶴見支所で営業担当)



業部・下浦さん

小館の仮設に小学4年生の男の子がいたのですが、同じ仮設には友達もな、遊ぶ場所もなく、家の中にある事しかできず、最初会った時は元気がなかったのですが、物資の花火を渡すという関係がうまくいってうれしくて、少うれしかったです。仮設住宅は山奥にあり、買い物も車なしでは行く事ができなかったり、病院も近くにはなく、本当に自立ができるのかとすごく感じました。(サ・ピュス事業部・下浦さん)

お取り引き先の復興と共に①

これまでの繋がりがあった からこそ“待っている”声に応えたい ～(株)アマタケ～



田野畑工場での解体作業は手で行います

組合員さんから「お鍋のシーズンには欠かせない!」家族みんなで復活を待ってます」という声が多く聞かれる「岩手鴨鍋セット」が9月3日からスタートします。産地の岩手県へ、当時の様子や復興にける想いをうかがいに田野畑村と大船渡市の工場を訪問しました。

3月11日、あい鴨が肥育されている田野畑村では震度4の地震が襲いました。「普段はクアア・ギーギーとにぎやかなあい鴨たちですが、その瞬間はビタッと鳴き止んだんです。さびしい山手にあるあい鴨の鶏舎や加工(解体・冷凍を行う建物)に被害はなかったのですが、その後が大変でした。3日間停電し、エサや水を与える機械が動かず泊り込みで番をしました。エサも不足し、種鴨以外は弱らない程度に制限。道路が寸断されたり、ガソリン不足や工場の機械を動かすための燃料もままならない中で、通える人で加工を続けました。鴨鍋セット」の Strauss・パックを行なっている大船渡市の本社工場は

その時 ビタッと鳴き止んだ (株)甘竹田野畑村 村田光輝さん



(株)アマタケ 相談役 甘竹秀雄さん



(株)甘竹田野畑村 村田光輝さん



を経て7月1日から製造を再開しました。パルコープさんからもこれまでの繋がりがあったから、で「被災しても復興待ってます」との有難い言葉をいただき、感謝しています。

相談役の甘竹さんは、県南部にある3工場のうち、高田工場と海の里工場を津波と地盤沈下で失いました。本社工場は瓦礫撤去・清掃をなんとか従業員で行い、機械の修繕やラインの変更など

7月1日に、復興式(株)アマタケ、本社工場(大船渡市) 田野畑村の沿岸部では9割の漁船が流出、漁協も津波で跡形もなくなるなど大変な被害です。景気が悪い上に、地震・津波で生活するための働き口がない。これからの課題は雇用の確保です。村の中でもななく稼働ができる、甘竹田野畑の役割は、いまここにあります」と、開発当初から製品を知る村田さんは話してくださりました。



*大船渡工場の状況は、「食べてスマイルオリジナル」に掲載しています